

観点別 内容と特色



光村図書

観点	内容と特色
1 教育基本法や学校教育法との対応	教育基本法や学校教育法の理念を踏まえて編集上の配慮がされているか。 ●各学年冒頭で、道徳とは何を学ぶ教科なのかを紹介している。対話を重視した学習活動を通して、他者と共に多面的・多角的な見方で道徳的価値について考えていく学習であることを理解し、1年間の見通しをもって授業に臨めるよう工夫している。 ●昔話を教材化した読み物、等身大の児童が登場する読み物、伝記等で知られる先人の生き方や、現在活躍する人物の子どもの頃の葛藤を扱った読み物、また視覚的に児童の興味・関心を喚起する漫画形式の教材、見開きの1枚絵や写真からなる教材など、多様な教材が配されている。 ●「いじめ問題」「情報モラル」などの現代的な課題が取り上げられており、児童が自分自身に引き寄せながら興味・関心をもって学ぶことのできる教材が選定されている。 ●日頃から、生活の中で疑問に思ったことを探究する姿勢を育めるよう、折に触れ、問いをもつ大切さに気づける工夫をしている。 ●自他の価値を認め合って学べるよう、【個性の伸長】を扱った教材を充実させるとともに、話し合い活動においては、相手の意見を肯定的に受け止めることを丁寧に示している。また、さまざまな考えに触れることによって、児童が新たな価値観を築けるよう工夫している。 1年 p.112-115、2年 p.36-39、3年 p.100-103、4年 p.68-71、5年 p.178-182、6年 p.10-15 など ●主体的に社会との関わりを考えたり、働くことができたりするよう、児童の発達に沿った話題を選び教材化している。また、自律した学習者となるよう、道徳の学び方を意識し、自らの問いを解決しようとする姿勢を育む教材となっている。 ●人権に対する意識を高め、差別を許さない心を育めるよう、児童にとって身近な話題から考えを深められる工夫をしている。 1年 p.50-53、2年 p.64-66、3年 p.22-25、4年 p.93-95、5年 p.140-145、6年 p.159-163 など ●社会の一員として、主体的に行動し社会へ参画することの意義を考えられるよう、児童の発達を意識した話題を取り上げている。 ●【生命の尊さ】を扱った教材を、年間3か所に位置付け、それぞれの教材で、生命の連続性、有限性、偶然性に触れながら、実感を伴ってかけがえのない命を大切にしようという心を育む工夫をしている。 1年 p.18-19、2年 p.48-52、3年 p.60-63、4年 p.50-54、5年 p.50-53、6年 p.70-75 など ●我が国と郷土の伝統や文化を大切に、よりよい地域社会の一員として自分にできることを見つけられるよう、児童が身近に感じたり、興味をもって取り組んだりできる題材を選び、教材化している。 1年 p.92-93、2年 p.134-137、3年 p.119-123、4年 p.98-102、5年 p.110-114、6年 p.174-178 など ●これからの時代を担う児童が多様な他者とわかり合いながら、世界の平和の実現に向かって、多様な視点で物事が考えられるように工夫している。
2 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う工夫	
3 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う工夫	
4 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う工夫	
5 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う工夫	

2 学習指導要領との対応	
1 道徳の目標を実現させるための配慮・工夫	【1】学習指導要領の基準性に鑑み、内容・系統は適切に構成されているか。 ●全学年を通して、教材末に学習のてびき「考えよう・話し合おう」が設けられている。自分に引き寄せて考えたり、問題を解決するために話し合ったりするなど、多面的・多角的に考えられる発問が教材に応じて置かれている。 ●全学年の教材冒頭に、キャラクターによる児童への呼びかけの言葉が示されており、「自分ならどうするだろう、どう考えるだろう」という主体的な姿勢で学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ●学習指導要領に示された内容項目（第1・2学年は19、第3・4学年20、第5・6学年は22）は、それぞれの学年において網羅されている。 ●各教材がどの視点、内容項目と対応するかは、教材冒頭のマーク、および教材名下の扉マークと児童が理解できる言葉で内容項目を表現したものとで示されている。 ●各巻最終ページ「先生方・保護者の方々へ」では、内容項目別に教材名が一覧になっているので、年間指導計画を作成する際、有効に活用できる。 ●第2学年以上の第一教材「道徳が始まるよ」では、道徳は何を学ぶ教科なのかを理解できるよう、児童にもわかる言葉で内容項目を示している。また、「道徳みちあんない」のページでは、1年間の学習を見通すことができるので、期待感をもって学習に向かうことができ、主体的に学ぶ意欲が高まる工夫がされている。 ●第3～6学年の第二教材では、道徳の学び方を示しており、教科書が自学自習の支えとなる役割を果たしている。 ●教材冒頭のQRコードにタブレット端末等をかざすと、教材の朗読を聴いたり、教材を補助する動画や資料などを視聴したりすることができ、一人一人の児童の興味・関心に訴えかける内容となっている。 5年 p.140 ▶
2 内容項目の取り上げ方	
3 主体的な学びを大切にするための配慮・工夫	●巻末に、児童が自己評価の記録を残す「学びの記録」が設けられており、第1～4学年はシールを貼る、第5・6学年は一言感想を記入する形式となっている。「学びの記録」に記録された自分の考えや行動を振り返ることで、自身の変化や成長を自覚でき、自尊感情を高め、主体的に学ぼうという意欲につながる。また、教師にとっても、児童の成長を大きくくに評価するために有効に活用できる。 ●読みの負担を軽減し、話し合いの時間を十分に確保するため、道徳的な問題が起こっている場面そのものを、挿絵と短い文章で端的に示した教材が配されており、教師の授業構想に配慮した工夫がなされている。 ●第2学年以上の第一教材にある「みんなで気持ちよく話し合うためのこつ」、1学期途中で取り組みを呼びかける「心を通わそう」、2学期冒頭に位置付いている「『考える』（2年は『しつもん』）準備たいそう」は、1年間の発達の段階を意識し、話し合いの喜びを実感できるよう構成されている。 3年 p.6-7、p.32-33、p.72-73 など ●特に第5・6学年には、「思いやり」や「自由」の本質について語り合い、友達と話し合うことによって自身の考えを深め、納得のいく答えを作り上げる教材を配している。 ●同じ内容項目を扱う教材は、児童の生活実態や発達の段階に合わせて、内容や分量、世界の広がりなど、学年に沿って傾斜をつけた内容となっている。また、下記に掲げた学年ごとの重点項目は、複数の教材、あるいはコラムや付録でこれを扱い、確かな学習経験となるよう配慮されている。 ○第1・2学年…「善悪の判断、自律、自由と責任」「節度、節制」「礼儀」「規則の尊重」 ○第3・4学年…「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「友情、信頼」「規則の尊重」「よりよい学校生活、集団生活の充実」 ○第5・6学年…「相互理解、寛容」「規則の尊重」「よりよい学校生活、集団生活の充実」「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」「国際理解、国際親善」
4 対話的な学びを大切にするための配慮・工夫	
5 学年間のつながりや指導内容の重点化に向けた配慮	



1 全体の構成・教材数・教材配列	【2】全体の構成や分量、教材数の配分・配列は適切か。
2 教材の構成	●学校生活の実態と、児童の1年間の成長を考慮して、年間を3つのまとまりに分けて構成しており、全国で最も多い3学期制に合っている。また、2学期制の場合には、児童が問答できるページ「なんだろう なんだろう」の前後を学期の区切りにできるよう、配列が配慮されている。
3 教材の難易度・分量	●全巻にわたって、「生命の尊さ」については、特に力点が置かれている。全学年に【生命の尊さ】をテーマとした教材が、各学期1か所ずつ（年間3か所ずつ）位置付けられており、児童が「命」の大切さを考え、継続的に自らを大切にすることを考えられるよう意図した編集がなされている。
4 教材の多様性	●教材数は、1教材1時間での扱いが可能となるよう、各学年35教材（第1学年のみ34教材）が配されている。教材とコラムとを組み合わせた「ユニット」が年間4か所（第1・2学年は2か所）に位置付けられており、地域・学校の実態に合わせた扱いができるよう配慮されている。
	●教材は、基本的に「導入⇒教材⇒学習のてびき」で構成されており、1時間の授業がイメージしやすいものとなっている。教材の読み取りに偏ることなく、「考え、議論する」ことを学習の中心に据え、登場人物への自我関与、問題解決的な学習、体験的な学習が可能となるよう構成されている。
	○教材と出会う（導入）……主体的に教材と向き合えるよう、教材冒頭のキャラクター「ころん」による問いかけから、教材の内容や道徳的価値と自分とを結び付けて考えられる。
	○「学びのテーマ」や「問い」に沿って考えを深める……教材文と、学習のてびきにある「学びのテーマ」（「考えよう・話し合おう」の太字部分）と「問い」（「考えよう・話し合おう」の「●」や中心的な発問「◎」で示されている部分）から主体的に考え、話し合うことができる。
	○道徳の学びを広げ、深める……学習のてびき「つなげよう」には、キャラクター「きりりん」が導く次の行動や他教科の学習につなげるヒント、また、「もやもやん」による「そうは言ってもできない自分」を見つめる投げかけが示されている。
	●児童の発達の段階や特性を考慮し、それぞれの学年にふさわしい教材選定となっている。等身大の児童が登場する読み物、伝記等で知られる先人の生き方や、現在活躍する人物の子どもの頃の葛藤など、児童の心を捉える教材がバランスよく配されている。
	●教材は発達の段階を考慮したページ数であり、各学年の配当漢字には全て振り仮名が付され、本文の理解を助ける脚注も随所に配されている。美しい挿絵をふんだんに配し、読みの負担を軽減し、児童が多面的・多角的に「考え、議論する」ことが学習の中心となるよう、十分な配慮がなされている。
	●読み物教材だけでなく、視覚的に児童の興味・関心を喚起する漫画形式の教材、見開きの1枚絵や写真からなる教材など、多様な教材が位置付けられており、児童が教材に引き込まれ、自ら考えようとするための十分な配慮がなされている。
	1年 p.60-63、2年 p.24-27、3年 p.49-53、4年 p.72-76、5年 p.154-159、6年 p.87-91 など
	●各学年に、「学校」「自分らしい楽しい」「うそ」「友達」「生きる幸せ」「自分」をテーマに、「○○って、なんだろう」と、児童が問答できるページ「なんだろう なんだろう」を設けている。複数の道徳的価値が含まれた内容であり、児童が進んで「考えようとする」コーナーとなっている。
	1年 p.58-59、2年 p.86-87、3年 p.98-99、4年 p.96-97、5年 p.94-95、6年 p.116-117

5 家庭・地域社会との連携	●第3学年以上の長期休み前に、「環境」「共生」を扱ったコラムを位置付け、その中に「夏休みに調べてみよう」「冬休みに調べてみよう」という趣旨のコーナーが設けられている。児童が、長期休みの間に自主的な学びに生かしたり、家庭での話し合いにつなげたりすることができる。
	3年p.70-71、p.134-135 など
	●情報モラルを扱ったコラムにおいては、「家庭との連携マーク」が付されている。情報モラルについては、学校だけでなく家庭と一体となった指導が必要であることがわかりやすく明示されている。
	●第3学年以上の巻末付録には、日本各地の伝統文化や、地域で取り組まれている防災活動が紹介されており、自らの暮らす地域のよさを探究しようとする自主的な学びのきっかけとして有効に活用できる。
	3年 p.174-175、4年 p.182-183、5年 p.190-191、6年 p.206-207

3 「令和の日本型学校教育」等、今日的な学習方法・指導方法との対応	
1 「個別最適な学び」を実現するための配慮	【1】「個別最適な学び」「協働的な学び」等への配慮がなされているか。
2 「協働的な学び」を実現するための配慮	●学習者用デジタル教科書を準備しており、文字の書体・大きさ、背景色を変更できる機能や、機械読み上げ機能等を活用することで、一人一人の児童の特性に合うようにカスタマイズすることができる。
	●一人一人異なる興味・関心をもつ児童が意欲をもって教材に向かえるよう、児童の発達の段階に沿った多様な題材を取り上げている。また、読み物教材の他にも、視覚的に児童の興味・関心を喚起する漫画形式の教材、見開きの1枚絵などから考える教材等、教材の形式の面でも、児童の多様な特性に対応しようと配慮している。
	●全学年の教材冒頭に、キャラクターによる児童への呼びかけの言葉が示されており、児童自ら自分の経験や考えを引き出すことで、自分にあった興味・関心に引き寄せて、教材に取り組むことができるよう配慮されている。
	●第2学年以上の、第一教材にある「みんなで気持ちよく話し合うためのこつ」、1学期途中で取り組みを呼びかける「心を通わそう」、2学期冒頭に位置付いている『「考える」準備たいそう』と、1年間の発達の段階を意識し、段階を追って、協働的な学びに欠かせない、対話する力を育む教材を用意している。
	●全学年を通して、教材末の学習のてびきには、「考えよう・話し合おう」が設けられており、教材を通して学んだことを自分に引き寄せて考えたり、問題を解決したりするために「話し合う」ことを意図した発問が置かれている。
	●特に第5・6学年には、「思いやり」「自由」の本質について語り合い、友達と話し合うことによって自身の考えを深め、納得のいく答えを作り上げる教材を配している。
	●発達の段階と教材に合わせて、登場人物への自我関与、問題解決的な学習、道徳的な行為に関する体験的な学習を織り交ぜながら、道徳的価値の自覚を深められるように工夫されている。
	●全学年を通して、教材末の学習のてびきには、「考えよう・話し合おう」が設けられており、教材を通して学んだことを自分に引き寄せて考えたり、問題を解決するためにどうすればよいかを考えたりする発問が用意されている。
3 登場人物への自我関与、問題解決的な学習、体験的な学習が可能となるための配慮	●特に第5・6学年では、協働的に問題を解決する教材が用意されており、教材を通して、多様な他者と共に話し合い、よりよい解決に向け、話し合うことができるように工夫されている。また、問題解決のステップが視覚的に捉えられるよう工夫している。
	●全学年を通して、体験的な学習「演じて考えよう」が設けられており、児童が実感をもって道徳的価値について考えが深められるようになっている。
	1年 p.80、2年 p.72、3年 p.47、4年 p.29、5年 p.47、6年 p.51

4 児童が見通しをもって学習に臨むための配慮 5 地域・学校の実態に応じて、計画的・発展的な指導・評価を行うための配慮 6 他教科との連携 7 地域教材の活用等、弾力的な扱いへの配慮	●各学年冒頭（1年は第一教材の前、第2学年以上は第一教材）で、道徳とは何を学ぶ教科なのかを紹介している。また、「道徳みちあんない」のページでは、1年間の学習を見通すことができるので、期待感をもって学習に向かうことができ、主体的に学ぶ意欲を高める工夫となっている。 ●第3～6学年の第二教材では、道徳の学び方を示しており、児童が道徳の学習や授業に見通しをもって臨めるように工夫している。 ●全学年を通して、教材末の学習のてびきには、教材を通して何を学ぶかを意識できるよう「学びのテーマ」(「考えよう・話し合おう」の太字部分) が示されている。そのうえで、自分や日常生活に結び付けたり、問題を解決するためにどうすればよいかを考えたりする発問が用意されている。児童にとって学習の目標・流れが捉えやすい。 ●清掃活動、学級会、給食、遠足、保護者参観など、多くの学校で行われている活動や行事を題材にした教材が随所に配されており、学校生活全般の中で、道徳的価値に気づくことができる。教材配列も、こうした行事が想定される時期に扱うことができるよう配慮されている。 1年 p.50-53、3年 p.100-103、5年 p.43-46 など ●年間4か所（第1・2学年は2か所）に位置付けられたコラムには、いじめ問題、情報モラル、環境、共生の現代的な課題について考える内容が取り上げられている。各学校の教育目標や、総合的な学習の時間の取り組みに合わせて活用することができる。 1年 p.54、108、2年 p.28-29、p.67、3年 p.26-27、p.49-55、4年 p.49、p.82-87、5年 p.48-49、p.84-85、6年 p.52-53、p.92-93 など ●巻末には、児童が自己評価の記録を残す、折込「学びの記録」が位置付いている。第1～4学年ではシールを貼ることで、第5・6学年は一言感想を書き込むことで自己評価を行う。第1・2学年は学期で、第3～6学年は1年間を見渡すことができるように配慮しており、児童が自分の変化や成長を振り返ることができる（自己評価）とともに、教師が、児童の成長を大きくくり評価するために有効に活用できる。切り取ることができる仕様となっているので、扱いやすい。 ●第2学年以上の教材末の学習のてびきには、「つなげよう」が設けられており、他教科で学習する内容との関連付け、特別活動や学校行事との関連付け、関連する内容の図書の紹介などが示されている。計画的・発展的に学習に取り組む際、有効に活用できる。道徳での学びが、授業でとどまることなく、他教科や日常生活につながるよう配慮されている。 ●各教材の学習のてびきの下には、他教科やSDGsとの関連がわかるようマークが付しており、一目でその関連がわかるように工夫している。国理音SDGs ●各巻最終ページ「先生方・保護者の方々へ」には、その学年に掲載した教材ごとの「内容項目」「主題」「現代的な課題等との関わり」「他教科・領域との関わり」が一覧となっている。地域教材の活用等、学校独自のカリキュラムに合わせて教材の入れ替えを計画する際、有効に活用できる。 1年 p.128、2年 p.160、3年 p.176、4年 p.184、5年 p.192、6年 p.208
1 生命の尊重（児童の自尊感情を高める）のための配慮	【2】現代的な課題について、児童が考えを深めるための配慮がなされているか。 ●全巻を通して、巻頭に「みんな 生きてる みんなで 生きてる」の詩が掲載されている。自分の命、他者の命、草木や動物の命、地球の命の全てを大切にしたいという道徳科の学習の目標が端的に示されている。 全学年 表 2-p.1 ●全学年に「生命の尊さ」をテーマとした教材が、各学期1つずつ（年間3つ）位置付けられており、生命の連続性、有限性などについて考えることのできる工夫がなされている。また、学年に1か所「感じよう いのち」というページを設け、教材で学

2 「いじめ問題」への対応 3 情報モラルへの対応 4 地域・伝統文化への配慮と国や郷土の扱い 5 国際理解教育への配慮 6 環境教育への配慮 7 キャリア教育への配慮 8 幼稚園・保育所との連携に向けた配慮	んだ命の大切さを、実感を伴った学びとなるように工夫している。 ●全学年を通して、さまざまな内容項目から「いじめ問題」に結び付く教材とコラムを組み合わせた「ユニット」が設定されており、「いじめ」をしない、させない、見過ごさない力が系統的に育成されるように工夫されている。 1年 p.48-54、2年 p.60-67、3年 p.18-27、4年 p.40-49、5年 p.38-49、6年 p.40-53 ●各学年に配された「いじめ問題」ユニットは、発達の段階に配慮した内容であると同時に、いずれも学年の前半に配当されており、学級づくり、友達との関係づくりに生かされるための配慮が十分になされている。 ●全学年の5～6月に、「心を通わそう」が設けられており、友達との関係づくりに生かせるようになっている。 1年 p.28-29、2年 p.34-35、3年 p.32-33、4年 p.34-35、5年 p.36-37、6年 p.38-39 ●全学年を通して、情報モラルに関わる教材とコラムとを組み合わせた「ユニット」が設定されている。道徳の特質を踏まえたうえで、情報モラルに関して深く考えることができるよう工夫されている。 1年 p.104-108、2年 p.24-29、3年 p.49-55、4年 p.82-87、5年 p.80-85、6年 p.87-93 ●さまざまな地域題材や日本の伝統文化を取り扱った教材が、学年の発達の段階に即して、全学年に配されている。写真等の資料も豊富に紹介され、児童が日本の伝統に親しみ、地域に愛着がもてるよう工夫されている。 1年 p.92-93、2年 p.131-133、3年 p.119-123、4年 p.99-102、5年 p.110-114、6年 p.174-178 など ●国や郷土を愛する気持ちを育み、この国の文化や伝統の素晴らしさを実感するきっかけとして、「おせち料理」や「お弁当箱（曲げわっぱ）」など、児童にとって身近な題材を取り上げている。 2年 p.131-133、6年 p.174-178 など ●第3学年以上の巻末付録には、日本各地の伝統文化や地域で取り組まれている活動などが紹介されており、児童が自分が暮らす地域のよさを探究しようとする自主的・発展的な学びの助けとして有効に活用できる。 3年 p.174-175、4年 p.182-183、5年 p.190-191、6年 p.206-207 ●異文化を理解し、世界の人たちと協力し合うことの価値が実感できるよう、世界の遊びや食べ物の紹介（低学年）、外国から来た人との交流（中学年）、歴史上の出来事を通した国と国との友好（高学年）など、児童の発達の段階に即して、多様な教材を配している。 1年 p.86-87、2年 p.134-137、3年 p.127-131、6年 p.152-157 など ●環境の大切さを児童の視点から捉えられるように、学校のプール清掃や地域清掃活動など、多くの児童が体験する題材を配している。また、写真を大胆に使い、自然に対する畏敬の念を想起しやすいよう工夫している。 1年 p.38-41、2年 p.44-47、3年 p.65-69、4年 p.56-60、5年 p.54-60、6年 p.65-69 など ●身近で働く人への共感や憧れ、地域行事への参加意欲、ボランティア活動の意義の自覚などを育めるよう、児童の視点に立ち、労働の価値や尊さが実感できる教材を随所に配している。第6学年では、「働く人へのインタビュー」や「やりがいについてのアンケート」も資料として掲載されている。 4年 p.103-107、5年 p.124-127、6年 p.189-194 など ●第1学年では、第1～5教材までを入門期として位置付けている。学校生活・家庭生活・登下校・友達との交流など、入学間もない児童の生活実態に即して、道徳を学ぶことの楽しさが実感できるよう、文字を極力用いず、絵を見て考えを引き出せるよ
---	--

9 人権教育上の配慮	うに教材化が図られている。 1年 p.6-15	
	●教科書全般にわたって、教材や挿絵に登場する人物や執筆者について、性別による偏りがないよう、十分な配慮がなされている。人種・身体的特徴についても、多様性に配慮した挿絵・記述となっている。	
10 安全・防災教育への配慮	●人権に関する知識を身につけ、さらに人権に対する意識を高めるために、世界人権宣言や、子どもの権利条約、元ハンセン病患者の方を取り上げた教材を用意している。	
	●全学年を通して、阪神・淡路大震災、東日本大震災など安全や防災を題材とした教材が配されており、自らの命、他者の命を尊重し、それを守るために、「常に備え、未来に伝える」という強い意識をもつための配慮がなされている。 3年 p.157-161、4年 p.172-175、5年 p.101-105、P190-191 など	
1 デザイン上の配慮	【3】 学ぶ意欲や楽しさを喚起し、学習効果を高めるための編集上の創意・工夫がなされているか。	
	●第2～6学年の「この本で使われている印」には、教科書で使用されているマークの役割について解説がある。 第2～6学年 p.2-3	
2 挿絵・写真・図などの選定・配置の工夫	●各教材とA～Dの視点や内容項目との関係が、教材の冒頭に明示されている。視点を示すマークは、A＝  、B＝  、C＝  、D＝  で提示されている。	
	●第2学年以上の教材名の下には、扉をイメージしたデザインのマークと、第一教材と連動した内容項目を示す平易な言葉が記されており、児童も教師も親しみやすく扱いやすい。	
3 付録（巻末資料）の扱い	●教材内容の理解を助け、イメージを豊かに広げる絵・写真が適所に配されている。また、内容を解説するための写真や図・グラフを必要な箇所に付し、本文の理解を助けるよう工夫されている。表やグラフは、その学年までに学習した他教科の内容を踏まえたものとなっている。	
	●読み物教材の他にも、視覚的に児童の興味・関心を喚起する漫画形式の教材、見開きの1枚絵などから考える教材が位置付けられている。いずれも児童にとって親しみやすく、新鮮な驚きを感じる絵や写真が掲載されている。	
4 その他、特設ページ等の配慮	●第3～6学年の巻末には、関連する教材の学習と結び付けて扱うことで、さらに学習効果が高まるような資料が掲載されている。	
	○「学びの道具箱」……授業が活性化するような思考ツールや話し合い活動を紹介している。	
	○「日本につたわる『くらしの道具』」「日本に伝わる『祭り』」「日本各地で取り組む『防災活動』」「日本の『伝統工芸』」……各地で大切にされている伝統文化や防災活動など、地域の基盤となるものを紹介している。	
	3年 p.174-175、4年 p.182-183、5年 p.190-191、6年 p.206-207	
	●全学年を通して、巻頭に「みんな 生きてる みんなで 生きてる」の詩が掲載されている。自分の命、他者の命、草木や動物の命、地球の命の全てを大切にしたいという道徳学習の目標が端的に示されている。 全学年 表2-p.1	
	●全学年を通して、朗読や写真、動画など、デジタルコンテンツが用意されており、授業の導入や展開で活用できるようになっている。	
	4年▶	
	●巻末には、児童が自己評価の記録を残す、折込「学びの記録」が位置付いている。第1～4学年はシールを貼ることで、第5・6学年は一言感想を書き込むことで自己評価を行う。第1・2学年は各学期で、第3～6学年は1年を見渡すことができるように配慮しており、児童が自分の変化や成長を振り返ることができる（自己評価）とともに、教師にとっても、「大きくりな評価」に役立てることができる。切り取るこ	

5 書名副題の工夫	もできる仕様となっているので、扱いやすい。
	●全学年を通して、表紙には教科名とともに「 きみが いちばん ひかるとき 」という副題が付されている。巻頭の詩「 みんな 生きてる みんなで 生きてる 」と共に、 自尊感情 を高め 生命の尊さ を意識した生き生きとした言葉で示されており、児童の学習意欲を喚起し、教科や教科書に対する愛着を培うために有効である。

4 使用上の配慮・工夫	
1 「個別最適な学び」を実現するための配慮	全ての児童が使いやすくわかりやすい教科書であるために、ユニバーサルデザインの観点からの配慮はなされているか。
2 特別支援教育への配慮	●学習者用デジタル教科書を準備しており、文字の書体・大きさ、背景色を変更できる機能や、機械読み上げ機能等を活用することで、一人一人の児童の特性に合うようにカスタマイズすることができる。
	●特別支援教育の専門家の校閲を受けたことが明記されており、学習上支援が必要な児童にとっても理解しやすいものとなるよう、読みやすさ、わかりやすさの配慮が行き届いている。
	●文字の大きさや配置、写真や絵の色遣いや配置の他、枠組みを使ったデザイン処理など、ユニバーサルデザインの観点から見ても、十分な配慮がなされている。
	●特に第1・2学年では、児童の読みのつまずきを軽減できるよう、行頭に助詞が来ないよう配慮している。
3 カラーユニバーサルデザインへの配慮	●カラーユニバーサルデザインの専門家の校閲を受けたことが明記されており、色覚特性をもつ児童が学習に支障を来すことがないよう、十分な配慮がなされている。
	●全編を通して見分けやすい配色になっていると同時に、色の別だけに頼らず、文字の説明を加えるなどして、色を見分けにくい児童にも情報が伝わるよう、十分な配慮がなされている。
4 表記・表現の配慮	●表記においては、第1学年は文節分かち書き、第2学年では3文節程度の分かち書きとしており、低学年児童の読みの負担を軽減するための配慮が行き届いている。
	●第1学年では数字以外は漢字表記とせず、平仮名が用いられている。第2～6学年では、当該学年の配当漢字に全て振り仮名が付されており、全学年を通して読みの負担を軽減するための配慮が行き届いている。
5 文字の書体・大きさ・文字組への配慮	●本文には、教科書のために特にデザインされた光村教科書体を用いている。読みやすく、書き文字に近いため、正しい字形を意識させることができ、文字指導にも適している。また、文字が小さい吹き出しには、見やすいUDフォントを用いている。
	●文字の大きさは、学年の発達の段階や教材の内容によって、十分に配慮されている。各ページの字詰め、行詰めは児童が読みやすいようにデザインされている。
6 表紙・印刷・製本上の配慮	●本文には、軽くて裏写りしにくい用紙を採用し、判型は、小学生が手に持ちやすく扱いやすいB5変型判である。
	●表紙は耐久性を高めるP.P.ラミネート加工を施して折れにくく、製本は堅牢である。表紙絵は、学習者である児童の等身大の主人公が描かれており、親しみやすく、明るい色遣いの絵を採用している。
	●原料や製法については、環境への負担を少なくし、児童の健康にも配慮している旨が明記されている。環境に配慮し、光の反射を抑えた紙が使用され、エコマーク認定の植物油インキで印刷されている。
光村図書出版株式会社	